

令和元年度 第1回 大阪府市文化振興会議 議事概要

- ◆日時：令和元年5月7日（火）16時から17時30分まで
- ◆場所：大阪府咲洲庁舎41階 共用会議室8
- ◆出席委員：橋爪会長、中川副会長、上田委員、荻田委員、片山委員、山東委員、
壺井委員、中西委員、春野委員、藤野委員、森口委員、わかぎ委員

【概要】

1 会議の成立について

（事務局）

- ・委員12名中11名の委員の出席により、会議が有効に成立していることを報告
（藤野委員におかれては、会議途中からのご出席）
- ・事務局挨拶（大阪府府民文化部文化・スポーツ室長）、事務局職員紹介

2 会議の公開について

（橋爪会長）

- ・大阪府が定める「会議の公開の指針」を踏まえ、本会議を原則公開とすることを確認
- ・他の委員から異議なく、会議の公開を決定

3 大阪府市の文化事業について

（事務局）

- ・資料3-1～3-4に基づき、大阪府文化事業について説明
- ・資料4-1～4-4に基づき、大阪市文化事業について説明
- ・各委員からの意見、質問等については以下のとおり

（春野委員）

○先日、4月24日にリニューアルオープンした府立上方演芸資料館（通称「ワッハ上方」）

（以下「ワッハ上方」）に伺った。

○多くの来場者があり、皆さん楽しんでいただいていた様子だが、これまで閲覧できていた上方演芸に関する書籍が見られなくなって残念という声を聞いている。企画展示を行っているスペースには余裕がありそうなので、そのあたりを活用して閲覧するようにできないか。

○芸人と、にらめっこ対決ができるコーナーがあるが、映像のクオリティーが低い。改善できないか。

○今後の催しなどの予定についても伺いたい。

(事務局)

- 今回のリニューアルに伴い、所蔵資料を保存する収蔵庫を府庁咲洲庁舎へ移転し、展示スペースを確保した。書籍の閲覧については、他にも同様のご意見をいただいている。対応については、今後検討していきたい。
- 企画展示スペースについては、単に展示するだけでなく、来場者が一緒に体験して楽しめるスペースとなるよう、改善を続けていく。にらめっこ対決の映像についても改善を重ねてまいりたい。
- 毎月、第1、3の土曜日、日曜日に、ワークショップを開催していく。5月の連休には、漫才やマジックなどのワークショップを開催し、好評であった。
- 今後、こうした取組みも通じて、更なる認知度向上を図り、より多くの方々に来館いただけるよう努力していく。

(橋爪会長)

- 「ワッハ上方」のあり方については、過去にも本審議会でも議論していた。
- 貴重な収蔵資料を適切に保存しながら、展示手法を見直すということで、今般リニューアルされた。委員の皆さんも是非ご覧いただければと思う。

(森口委員)

- 府立江之子島文化芸術創造センター（通称「enoco」）（以下「enoco」）に収蔵されている約7,900点もの美術作品は、どのように活用されているのか。

(事務局)

- 所蔵作品活用総数としては、約1,000点で、「enoco」での館内展示のほか、大阪モノレール駅舎、府内の病院や大学等で展示を行っている。その他にも、年3回開催される企画展で活用したり、小学校や支援学校に対する出張展示でも活用している。また、大きな作品などは、ここ咲洲庁舎にも展示しており、来庁者のみならず、庁舎に入居するホテルに宿泊している訪日外国人の皆さまにもご覧いただいているところ。
- しかしながら、まだまだ十分活用しきれていないと認識しており、引き続き、活用に努めてまいりたい。

(森口委員)

- 大阪モノレール駅舎に展示されている作品は、ホコリを被っている状態。非常に残念。
- 大阪には東京に負けない美術のムーブメントがある。多くの素晴らしい作品があることが府民のプライドにつながるよう、もっと有効な活用策を真剣に考えてほしい。

(橋爪会長)

- 間もなく次期文化振興計画の策定作業に着手する。これにあわせて、府所蔵美術作品の活用や、コレクションの再評価に関する検討が必要ではないか。

○作品がホコリを被っている状態は、そもそも美術品として認識していないのと同様の状況といえる。府におかれては、適切な対応をお願いする。

(片山委員)

○府は、広域自治体として、府内市町村における文化施策の状況を把握しているのか。昨年度実施された事業の多くが大阪市内で行われているが、広域自治体として、府内各地でどのような文化事業が行われ、府民がどのように感じているかなどの把握は必須である。

(事務局)

○昨年度、府内市町村文化行政担当課に対しアンケートを行い、各市町村における文化振興計画の策定状況や、文化行政担当者が感じている課題等を調査した。

○その結果も踏まえ、今後、市町村担当者との意見交換の場を設けるなど、広域自治体として、市町村の文化施策の実施支援に取り組んでいく。

(中西委員)

○府の広域自治体としての取組みとして、府と府内市町村が実施する広域講座「おおさかふみんネット」があり、府は市町村とネットワークが構築されている。昨年度大阪アーツカウンシルとして講演させていただいた。引き続き、大阪アーツカウンシルとしてもこのようなネットワークを活用した取組みを続けてまいりたい。

(中川副会長)

○平成 29 年の文化芸術基本法の改正等を踏まえ、次期文化振興計画策定に向けたポイントを申し上げる。

○まず、府内市町村に対する支援の重要性について。これについては、近隣県の審議会でも問題意識が出てきている。文化振興に関する条例の制定や審議会の設置等について、府は、広域自治体として基礎自治体である市町村に対して啓発を促進する取組みが必要。

○また、府は、府内市町村の文化担当者や、文化ホールの制作担当者等に向けた研修も行うべき。基本法の改正では、ソーシャルインクルージョン、社会包摂の考えが強く打ち出されているが、先に制定された、劇場、音楽堂等の活性化に関する法律の内容も鑑みた計画としていただきたい。

○時間がない人、お金がない人、ハンデがある人などへのアプローチをこれまで以上に打ち出し、文化振興計画の「施策の方向性」のひとつである「C 社会のための文化」として、重点的に取り組む必要がある。

○次期計画では、「文化芸術基本法」「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の3つの法律を踏まえることと、府については、基礎自治体への支援。これらを重視する必要がある。

4 大阪アーツカウンシルの取組みについて

(中西委員)

- ・資料 5、6 に基づき、大阪アーツカウンシルの取組みについて説明
- ・令和元年度の活動方針について、審議会として確認

(中西委員)

○昨年度 1 年を通じて、現場の方々、府市職員、アーツカウンシル部会委員と対話を重ねることで様々なことを学ばせていただいた。これは、前年度までに体制がつくられていたからこそ、色々と取組むことができたと思っている。今年度も引き続き、よろしくお願いします。

(中川副会長)

- 昨年 4 月に大阪アーツカウンシルのメンバーが変わった。前メンバーも精力的に活動されていたが、新メンバーは、一層踏み込んで活動されており、大いに評価する。そしてそのご尽力に感謝申し上げる。
- ところで、大阪の文化振興に関する提案の 3 つめに記載されている、事業評価制度について、どのような内容なのか確認したい。

(中西委員)

- 府市が行う文化事業について、職員等と現場でもっと話し合う必要があると感じている。全てとなると数が多いので、重点事業を決めて、絞り込んで実施したい。
- 大阪アーツカウンシルとして各事業のプログラム評価を実施しているが、文化振興計画のどの部分に位置付けられた事業なのか等について担当者と共有し、担当者のご負担にならない範囲で、施策に踏み込んで話ができればと考えている。

5 次期文化振興計画策定について

(事務局)

- ・資料 7 に基づき、次期文化振興計画策定スケジュールについて説明
- ・審議会に計画検討ワーキングを設けて、集中的に議論することを確認
(詳細は、次回の審議会までに、会長と事務局で調整を行う)
- ・各委員からの意見、質問等については以下のとおり

(山東委員)

○大阪府と大阪市は連携しているが、府内のもう一つの政令市である堺市が浮いてしまわないか。「堺は堺」で、となってはいけない。

(事務局)

○府の次期文化振興計画の策定においてもこれまでと同様に、堺市を含めた府内市町村と連携し、情報交換をしっかりと行っていく。

(橋爪会長)

○他の自治体の審議会との連携や、文化事業担当者同士のネットワークは大切である。

(藤野委員)

○府市文化振興計画の「目指す将来像」である「文化自由都市、大阪」の実現に向けて、現状は、民間任せになりすぎていないか。また、行政と民間とのコラボレーションも見えてこない。

○私は昨年、一昨年と、府内の市町村職員が参加する研究会の活動に携わった。文化事業担当ではない若い人たちが多かったが、文化芸術を活かしたまちづくりに非常に熱い思いを持っている人がたくさんいると感じた。

○府と府内市町村の連携が十分でないのはもったいない。府は、基礎自治体である市町村ができない部分をどうやって支援するのか、また、大阪アーツカウンシルがサポートするという位置づけについても考慮し、さらに民間の力を活かして、大阪の文化振興が有機的に動くような府市の政策を、次期計画に位置付けていく必要がある。

(荻田委員)

○私は「ワッハ上方」の資料整理などに関わっているが、館長や担当職員が毎年変わる状況。これはよくない。文化を大事に考えるなら、そのあたりも真剣に考えるべきである。

(中川副会長)

○次期文化振興計画の策定に関して、追加で申し上げる。

○府は、府内市町村の課長や係長などと、定期的に意見交換、交流する機会を設けるべきである。他の自治体を知ることにより、客観視が可能になる。

○府は、大阪市だけに目を向けていると思われる。そうではない姿勢をきちんと示すべきである。

○また、キュレーターなど、アーティストを支える人材の育成にも力を入れるべきで、ミドルキャリアの人材が伸びていけるような仕組みづくりが必要である。

(橋爪会長)

○次期計画については、次回の会議において詳しく意見をいただきたいと思う。

○文化芸術には様々な分野があるが、文化のどこに重点を置くのかは各自治体の個性が出るころ。次期計画については、本日意見があった、広域連携や人材育成の視点等を踏まえ、検討していきたいので、よろしく願います。

— 以上 —